

ヘルスツーリズムの現状と 認証基準について

2016年9月23日

ヘルスツーリズム認証制度委員会
特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構

高橋 伸佳

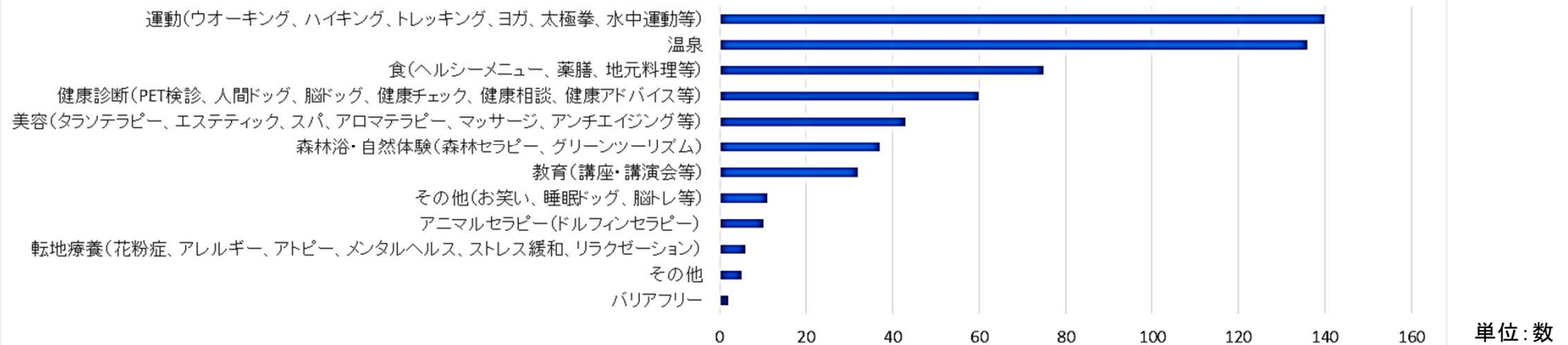
ヘルスツーリズムの現状と 認証制度の必要性

ヘルスツーリズムの現状

ポイント

消費者の健康志向の増大、地方創生等の関係から供給も増え市場は急拡大。国内で提供されているヘルスツーリズムプログラムにおいては、その多くが運動、温泉、食のプログラムとなっている。

ヘルスツーリズム推進地におけるプログラム内容



▼ヘルスツーリズムの取り組み事例

出典:ヘルスツーリズム研究所「ヘルスツーリズムの現状と展望」を元に事務局作成

上山型温泉クアオルト(山形県上市市)

日本初で唯一ミュンヘン大学が認定した気候性地形療法を採り入れたプログラム。体表面を冷たく保ちながら、森や山の傾斜地を歩くことで持続力を強化し通常の運動効果の2倍を得ることを狙う。フルーツや健康弁当にも特色がある。参加者数は年間10,000名超。



出典:上市市クアオルト協議会

熊野セラピー(和歌山県田辺市)

世界遺産熊野古道を中心としたウオーキングや温泉を活用したプログラムを豊富に有するヘルスツーリズム産業のお手本的存在。ココロとカラダを元気!というスローガンのもと、メンタルヘルスにも言及したプログラムも有している。参加者数は年間4,000名超。



出典:NPO法人熊野で健康ラボ
代表理事 木下藤寿先生

メンタルヘルスツーリズム(沖縄県南城市)

朝ヨガ、精神文化と歴史的世界遺産斎場御嶽、久高島を利用した海洋プログラムと地元医療機関との連携を図るメンタルヘルス対応型プログラムやアレルギー対応メニューなど先進的なプログラムを多数有する。

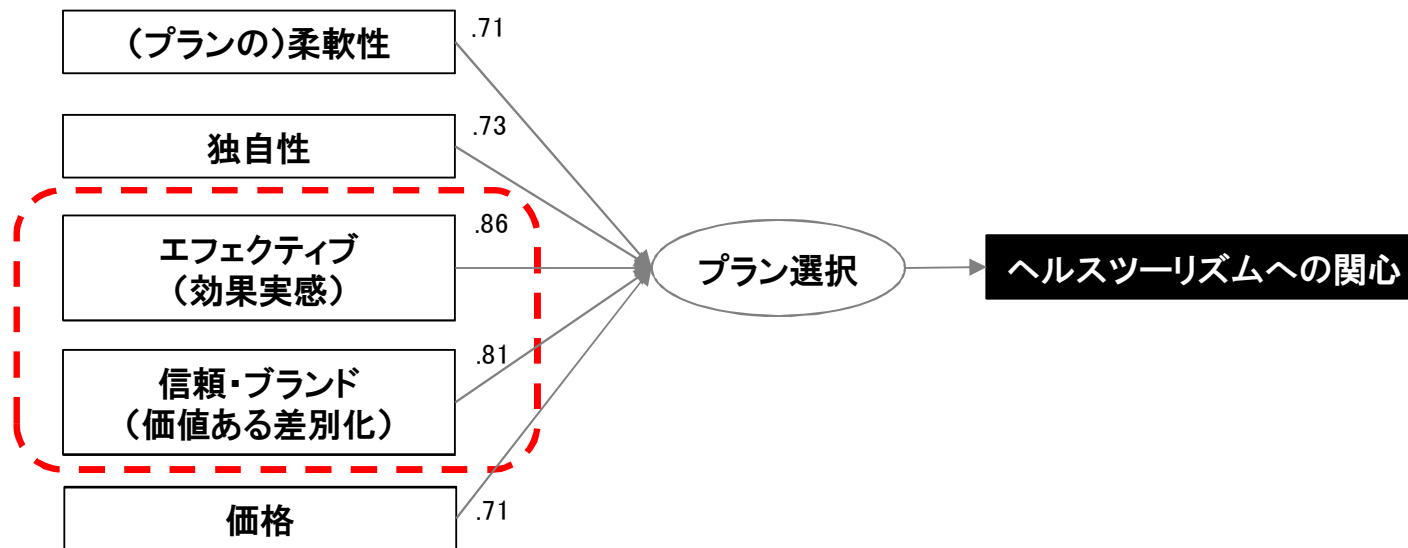


出典:イーストホームタウン沖縄株式会社
琉球大学教授 荒川雅志先生

ヘルスツーリズムの課題1

ポイント ヘルスツーリズムサービスについては、消費者にとって信頼に足る客観的な指標が存在しない。

消費者がヘルスツーリズムのプログラムを選択するうえで、「エフェクティブ(効果実感)」と「信頼・ブランド」を重視していると考えられている。しかしながら、こうしたニーズに対して客観的に把握できる仕組みが現状は存在していない。



◎「エフェクティブ(効果実感)」とは、プログラムの科学的根拠につながる品質評価を指す。

◎「信頼・ブランド」とは、プログラムへの客観的な信頼性やプログラムのブランド性を指す。

(注) 上記数値は相関係数を表記

n=1,500

図 ヘルスツーリズムの関心構造分析(要約)

出典: 高橋伸佳「ヘルスツーリズムの歴史と現代社会で求められている機能」日本渡航医学会誌, 2007

ヘルスツーリズムの課題2

ポイント

ヘルスツーリズムサービスの客観的指標の欠如が事業者におけるサービス流通・販売の阻害要因になっている。

ツーリズムの流通は、多くの場合、流通事業者（旅行会社等）に依存して販売ルートを確認する構造となっている。しかしながら、流通事業者（旅行会社等）側からみると、①地域に存在するヘルスツーリズム・コンテンツを評価するノウハウがなく、商品（パッケージ）化に至りにくい、②仮に商品化できても、店頭等において消費者に商品の効果・品質等を客観的に説明できず、販売に至りにくいという、サプライチェーン上の課題が存在する。

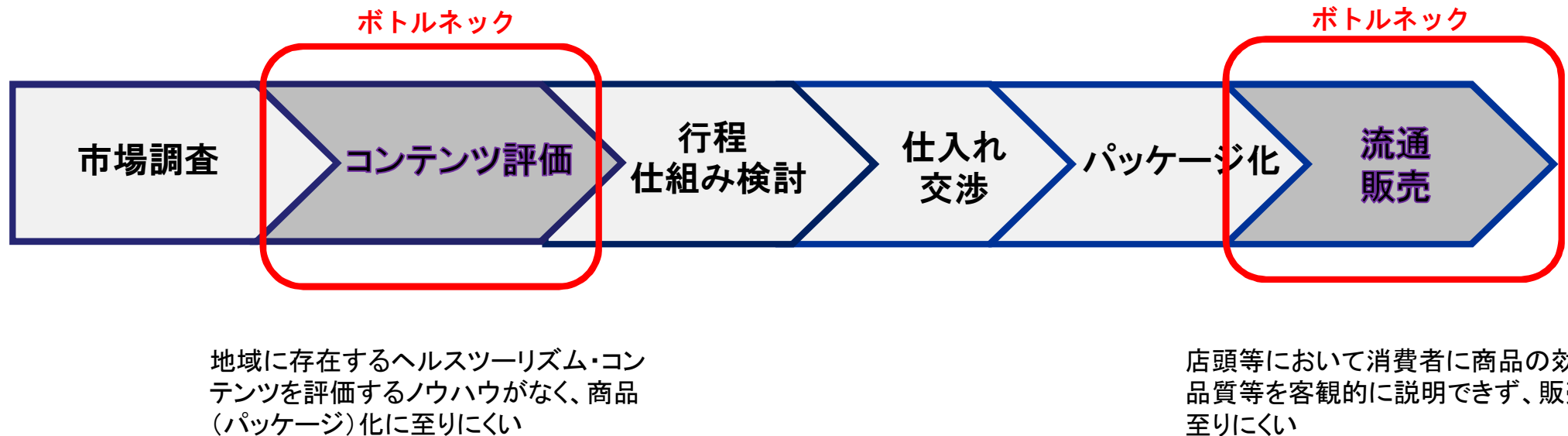
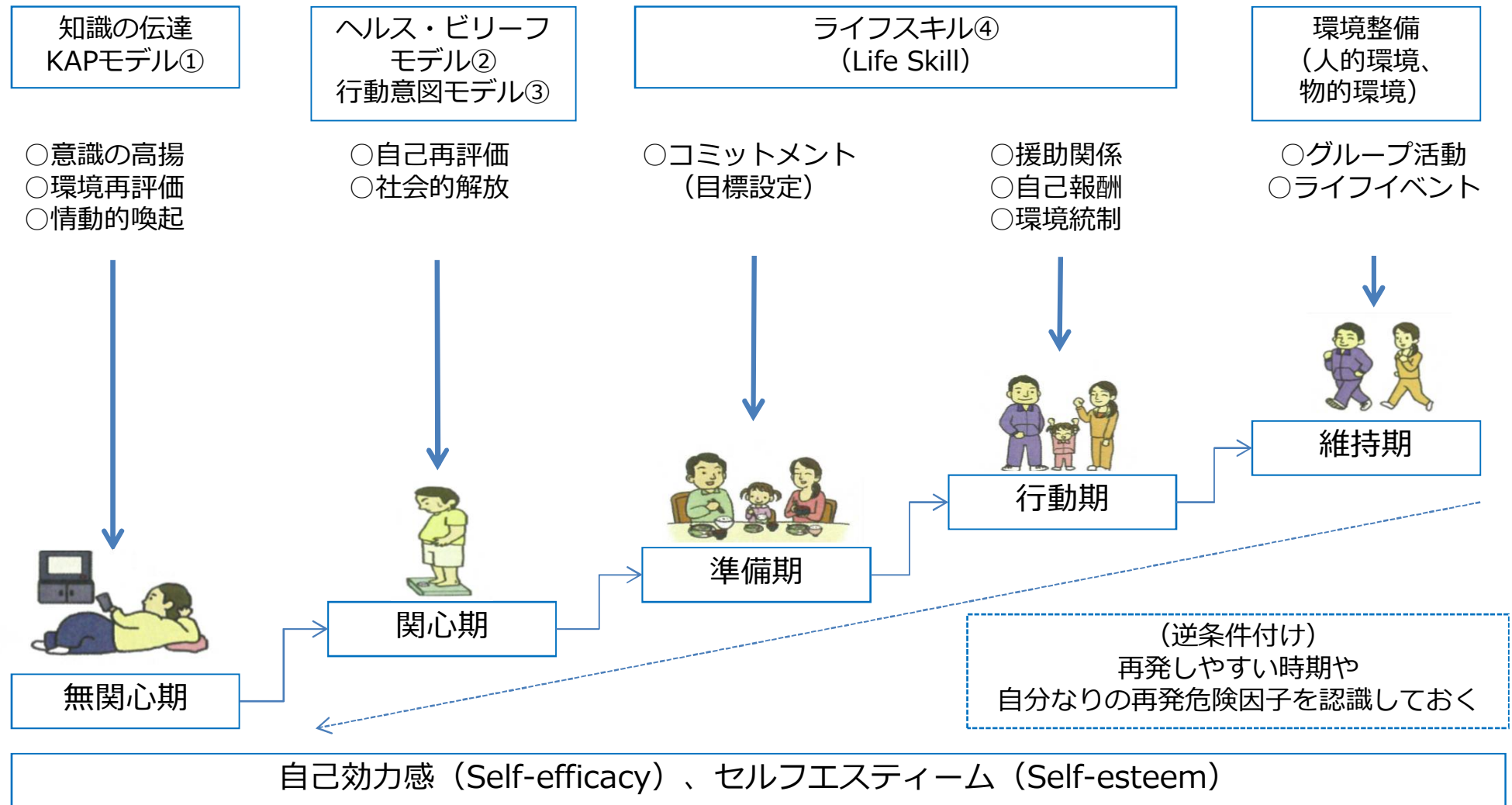


図 ヘルスツーリズムのサプライチェーン

ヘルスツーリズムの機能

ポイント ヘルスツーリズムで期待されるのは、行動変容における無関心期から関心期へのステップアップ



ヘルスツーリズム認証の目指す 方向性・ポジショニング

ヘルスツーリズム認証構築において目指したポイント

ポイント ヘルスツーリズムビジネスの発展の阻害要因を品質評価で解消することを目指す。

本事業においては、需要側と供給側の客観的評価指標の欠如という課題をヘルスツーリズム品質評価をもって解消することで、消費者側の選択に資する科学的根拠の明確化、流通・販売側に資する科学的根拠、サービス基礎条件の整備につなげていくことが成果として期待できる。

課題1：ヘルスツーリズムサービスを選択する際に必要となる客観的評価指標の欠如

課題2：ヘルスツーリズムサービスを提供する際に必要となる客観的評価指標の欠如

ヘルスツーリズム品質評価

想定される成果

科学的根拠の明確化

サービス基礎条件の明確化

ヘルスツーリズム認証のポジショニング

ポイント

本事業の認証対象は、旅行先で実施されるヘルスツーリズムプログラムだけでなく、旅行前後のケアも含めたヘルスツーリズムプログラムも含むものとする。

ヘルスツーリズムは従来、旅行先で提供されるサービスのみに着目していたが、近年では健康増進や運動習慣の定着（行動変容）等を実現する事例もでてきているため、こうしたプログラムについては旅行中以外の部分も考慮する。

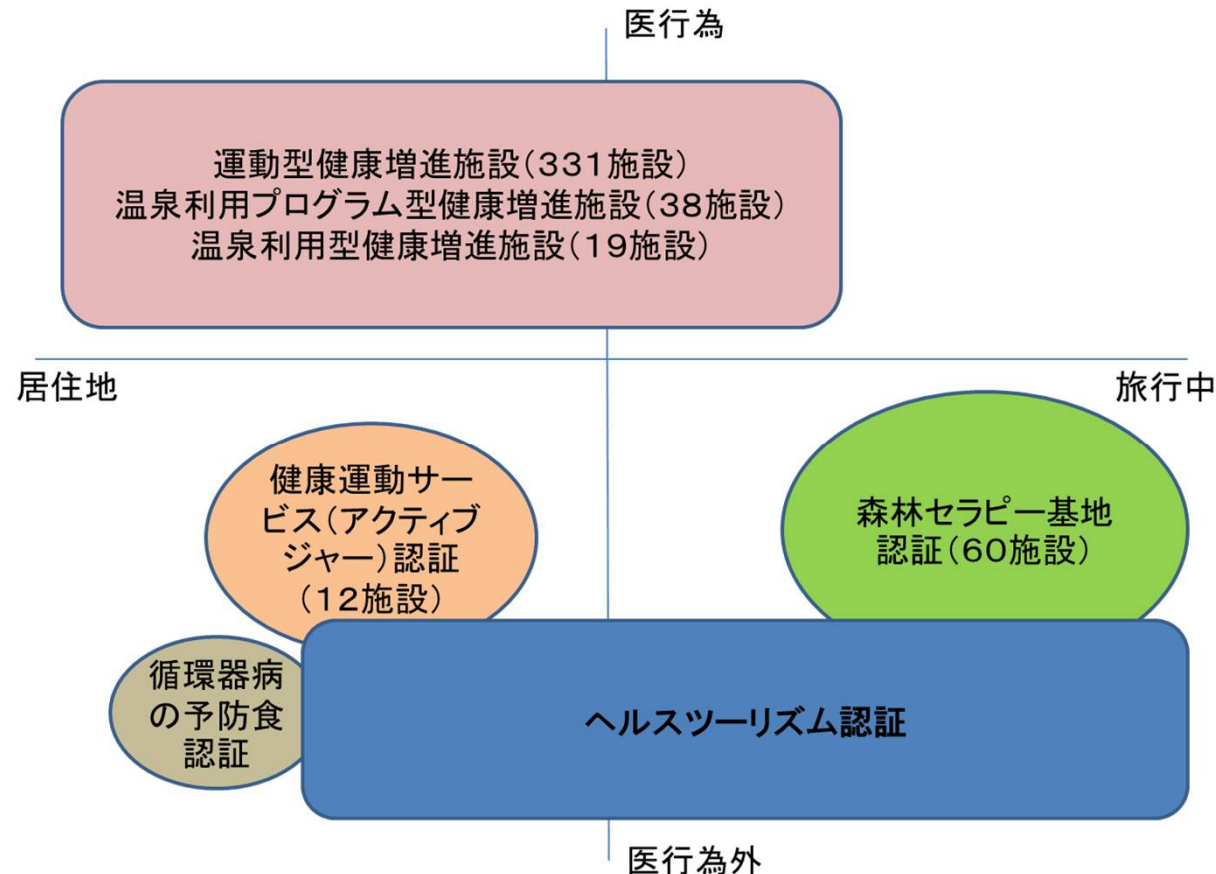


図 ヘルスツーリズム認証(品質評価)のポジショニングイメージ

ヘルスツーリズム認証の先進事例



オーストリア調査協力: 広島国際大学 教授 吉長成恭先生

ヘルスツーリズム認証の先進事例(オーストリア)

ポイント

Best Health Austria認証は、オーストリア品質推進協会(OQA)が認証するサービス品質保証で、現在20施設を認証。

Best Health Austriaを認証しているオーストリア品質推進協会(OQA)は来年で設立70周年を迎える、経済省管轄の団体。

1. 体制・運用

発足: OQAは第2次世界大戦後の1947年に、オーストリア製品の購入を促進させるために発足。

現在認証をしているのは、「オーストリア品質」(オーストリア製品やオーストリア規格に準じている製品)、「中小企業品質」(サービス部門)、「在宅看護品質」、など。Best Health Austria認証は2004年から開始。

運用: OQAが認証を運用している。調査の手法は、書面審査・訪問審査・アンケート審査。

第一審査

- ・事前審査(書面)
- ・訪問審査
- ・審査報告

認証

継続審査

- ・1年後、2年後
- ・第一審査と同じ方式
- ・審査報告

延長審査

- ・3年後
- ・第一審査と同じ方式
- ・審査報告

継続認証

対象: スパ・保養施設やリハビリ、医療機関が中心。対象となるのはオーストリア内で約980施設。

認証ランク: Best Health Austria認証はレベル1(Partner)とレベル2(PremiumPartner)が存在。

Partner(18施設)、PremiumPartner(2施設)

認証期間: 3年

収益: 認証取得の費用(1年間)は、2,900~6,700ユーロ。

2. 制度が抱える課題

事業者の経営規模が小さいところは、認証取得に積極的ではない。

3. 今後の展望

Best Health Austria認証を得た施設を保険の対象とするかどうか、現在関係省庁間で検討している。 OQA代表と事務局。OQA事務所内にて

4. 調査によって得られた示唆

- ・3種の審査方法を採用している点が本事業の審査と共通する。アンケートも含めた審査は一つの手法として妥当であると考えられた。
- ・認証項目には地域への貢献、ESを要求する要素が強く、この点は今回の認証項目にも参考にすべきではないか。



ヘルスツーリズム認証の先進事例(オーストリア)

ポイント

Best Health Austria認証の品質ガイドラインは8つの大項目からなる。
事業者内部の質を高めることが目的で、すべての判定基準をクリアしなければならない。

リーダーシップ

- ・ビジョン、任務、価値
- ・倫理的方針
- ・継続的改善プロセスへの個人的協力
- ・カスタマー、パートナーとの協同
- ・従業員への事業哲学の周知
- ・組織の変化を認識、操作

従業員

- ・基礎知識、基礎能力
- ・継続的教育、研修
- ・その施設に関する知識
- ・責任
- ・内部コミュニケーション
- ・社会参加

プロセス・プロダクト・サービス・サービスチェーン

- ・プロセスの識別
- ・利用、入手可能性
- ・情報
- ・選択可能性
- ・個々の要望
- ・サポートプロセス
- ・継続的な改善プロセス

戦略

- ・哲学
- ・目標
- ・イノベーション
- ・サービス提供
- ・外部コミュニケーション
- ・水準目標の設定

パートナーシップと資源

- ・施設
- ・プライバシー
- ・地元志向と自然
- ・食
- ・衛生
- ・パートナーシップ
- ・欠陥管理

顧客の成果

- ・カスタマーアンケート
- ・フィードバック
- ・対応
- ・評価

人材の成果

- ・従業員へのアンケート
- ・フィードバック
- ・評価

社会的成果

- ・社会参加



Best Health Austria
認証マーク



Best Health Austria
証書

ヘルスツーリズム認証の先進事例(オーストリア)

ポイント

オーストリアにある「Gesundheits-und Kurhotel」は、集客効果といったマーケティング目的では「Best Health Austria」を捉えていないが、客室には証として認証マークを置いている。

所在地 : 緑豊かな公園に囲まれたバーデン・バイ・ウィーンに位置するスパ施設。

実績 : 1年間の宿泊数は延べ85,000泊に達する。施設側では月に20種、20,000セラピーを提供している。

プログラム : 62種のセラピープログラムがあり、顧客は平均3週間滞在する。

【安全性】

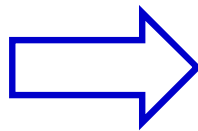
①提供体制: ホームページはドイツ語、英語表記あり。プログラム効能、内容、料金、予約方法の記載がある。

②人材育成: 講習など教育制度が充実している(商工会議所の助成金あり)。

③保険対応: 顧客は個人と保険者経由の2通り。現状では、70~80%程度が保険者経由。保険者経由の顧客の場合1日4種のセラピーが必要。月曜日から金曜日の7:00~15:30、土曜日の午前中に実施。

【有効性】

①BAP(保養ホテル用コンピュータープログラム)で直接保険者と、繋がり日々の顧客管理等運営業務を推進している。



各客室には「Best Health Austria」の認証マークを置いている



屋外スパ施設



客室のベッドにも運動の仕方が置いてある

【Best Health Austria取得後について】

認証を取得することは審査項目に基づいたサービス維持・改善により品質向上を図ることができる。

ポイント

オーストリアにある「Klinikum Malcherhof Baden」は、「Best Health Austria」の認証をマーケティング目的には活用していないが、内部の質の向上に好適である。

所在地：ウィーンから日帰りで行ける温泉地バーデン・バイ・ウィーンにあるリハビリテーション専門クリニック施設。ザルツブルグ、ウィーングラントにもプライベート病院を有している（日本の健康増進施設に一部相当）。

プログラム：関節、リウマチ、メタボリックシンドローム、整形など。短期、中期、長期の目標を設定し、透明感のあるリハビリテーションを実施。また、メニューはアクティブセラピーとパッシブセラピーに大別される。

- ①アクティブセラピー:エクササイズ、メディカルトレーニング、教育、エルゴセラピー、プール、ノルディックウォーキング
②パッシブセラピー:ハイドロセラピー、サーモセラピー



Klinikum Malcherhofの 担当者と事務局

【安全性】

- ①提供体制：ホームページはドイツ語のみ。プログラム効能、内容、予約方法の記載がある。
36の部門からなり、スタッフは総勢150名。
- ②参加者への対応：患者のモニタリングのため、スタッフが1週間のうち2回訪問する。ただし、炎症性リウマチの場合は、モニタリングのためスタッフが1日に2回訪問する。
- ③保険対応：患者はSVAといった自営業者の保険で費用がカバーされるが、収入によって範囲は異なる。

【有効性】

- ①「Best Health Austria」の認証取得と品質向上のため認定の定型質問紙に独自の項目を付け加えたお客様アンケートを実施している。

【情緒的價值】

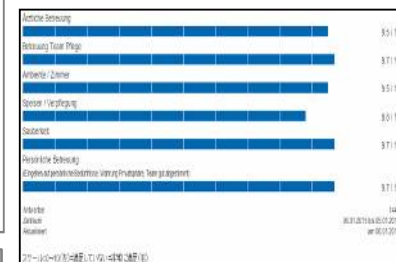
- ①患者をそれぞれの専用チームが総合的かつ個別に対応している。
②リハビリテーションの目標は、退院後直ぐに働けるようにすること。

【地域性】

- ①ローマ時代から2000年の歴史があり、立地がよいこと、硫黄泉が出るのが強み。



施設内レストラン



顧客満足度アンケート

【Best Health Austria取得後について】

サービスにおける注意すべき点をチェックできる。また、品質をコントロールして可能性を検証することができ、これをスタッフにフィードバックできる点もよい。

ヘルスツーリズム認証の先進事例(オーストリア)

ポイント

オーストリアにある「Gesundheitsresort Königsberg Bad Schonau」は、「Best Health Austria」の認証を内部の質向上、透明性をもってサービスを「見える化」するためである。

所在地：ニーダーエスターライヒ州の南東部にあるバード・シェーナウは丘陵地域に位置している260床の施設を有したリハビリテーション専門のクリニック施設(日本の健康増進施設に一部相当)。

実績：年間延べ85,000泊。売上は900万ユーロ/年、うち人件費率は50%。

プログラム：脊椎、膝、循環器、心療内科のリハビリテーションを実施。

心療内科系は6週間が1つの単位、身体系は3週間が1つの単位となる。

グループセラピーや創造セラピー(音楽、陶芸、絵画など)も実施。

心と身体、一体となったりリハビリテーションを推進。考え方の根本には、「身体が動くと精神も動くという考え」である。



施設入口

【安全性】

①提供体制：ホームページはドイツ語、英語表記あり。プログラム効能、内容、料金、予約方法の記載がある。

スタッフは総勢190名。うち14名は医師(2名は非常勤)、35名の療法士がいる。

②人材育成：定期的に大会やセミナーを設け、優秀なスタッフには賞を授与しモチベーションを上げている。

③参加者への対応：24時間の管理体制を実施(パニック症候群などに対応)。

④保険対応：保険適用可。70%は保険適用、30%が健康旅行目的のプライベート顧客。プライベート顧客は1週間から3週間滞在。毎年来るリピーターもいる。また、保険会社向けのスタンダードセット(最低1週間)もある。

【有効性】

①効果を計測するため、リハビリ前後にテストを実施している。

【情緒的価値】

①社会復帰と喜びを提供すること、1日の正しい生活リズムを身につけることを心がけている。

②オーガニック野菜や肉、チーズ、果物など栄養面にも配慮している。

【地域性】

①ヘルスリゾートで有名なバード・シェーナウはCO2の濃度が高い温泉水が発見された場所である。



入口付近にある
認証マーク



リハビリ用ボルダリング設備

【Best Health Austria取得後について】

医師や保険者の認知度もあるため、送患につながる。また、毎年検査があるので欠点が浮き彫りとなりより質が上がる。

ヘルスツーリズム認証の先進事例(オーストリア)

ポイント

オーストリアにある「Rogner Bad Blumau」は、「Best Health Austria」認証では数少ないレベル2を取得している。

所在地 : スティリア (Styria) の温泉地区中心部にある40ヘクタールもある広大なスパホテル(健康施設)。

実績 : 年間の顧客は170,000人(宿泊)。リピーターは70%。最大700名が同時に宿泊可能。プールの利用者は年間200,000人。売上高は2,500万ユーロ、うち人件費率は34%。

プログラム : ボディケア、フットケア、マッサージ(アーユルベータなど)、死海の塩で覆われた洞窟でのアンチエイジングプログラム、チャクラ瞑想、ヨガ、ウォータースポーツなど。

【安全性】

①提供体制: ホームページはドイツ語、英語、イタリア語表記あり。プログラム効能内容、料金、予約方法の記載がある。

従業員は総勢330名。医師1名、医療マッサージ師1名、マッサージ師17名、エステティシャン6名など。

②人材育成: 審査の際、マネージャーは審査日程を把握しているがスタッフには敢えて伝えない。理由は自分たちのサービスの質向上には、普段の姿を審査してもらうことが大切であると考えている。

③施設: プール、温泉施設、ミネラル温泉(Vulkania湖の水で水中音楽も楽しめる)、サウナ施設 がある。

【有効性】

①アンケートでは98%の顧客が「ゆっくりしたい、何もしたくない」と考えていることがわかっているため、健康な人がリラックスする場として活用されている。

【地域性】

①OQAより地元の雇用を85%以上活用することを求められている。

②OQAより半径100キロメートル内の地産地消の食材を活用することを求められている。

③地域産業を育てる役目も負っている。



屋外温水プール

【Best Health Austria取得後について】

①質の向上に大きく寄与すると捉えている。サービスのスタンダードを図り、顧客からの反応も検証できる。

②サービスのベースがわかればトップ水準のサービスを保つことができる。

③短期、中期、長期での品質管理も図ることができるとともに、革新的なサービスに挑戦することもできる。

④マーケティング目的には活用していない。



Rogner Bad Blumauの
ジオラマ



Rogner Bad Blumauの
担当者と事務局

ヘルスツーリズム認証基準の概要

ヘルスツーリズム認証基準の概要

ポイント

あらゆる地域ヘルスケア事業者(プログラム提供事業者)が対象となる。

○旅行事業者

○ホテル事業者、旅館事業者

○温浴事業者

○スパ事業者、エステ事業者

○タラソセラピー事業者

○森林セラピー事業者

○野外教育事業者

○アウトドアアクティビティ事業者

○飲食業事業者

ヘルスツーリズムのプログラム
を提供可能な法人全て

○医療機関(医行為を除く)

○介護・福祉事業者

○健康増進施設事業者(域外対象)

○マッサージ事業者 など想定

ヘルスツーリズム認証基準の概要

ポイント

ヘルスツーリズムの「プログラムに対する認証基準」である。



熊野健康ウォーキング (熊野セラピスト同行)



樹に触れたり、水の音、鳥の声に耳を澄ませ、五感を刺激しながら、楽しくウォーキングを行い、健康増進を図る。和歌山県、和歌山県立医科大学、日本福祉大学等とともに、心身に及ぼす影響を科学的に検証済み。

熊野セラピスト

熊野を知り尽くし、健康的に楽しく案内してくれる古道歩きインストラクター。

歴史・文化の話や、古道ウォークの前後や合間にストレッチなどを取り入れることで、体に負担をかけず疲れを残さない、健康的なウォークを指導する。ウォーキングのペース配分や、食事や水分補給などにも配慮し、熊野古道ウォークを安全に楽しむための「健康案内人」。

受付・健康チェック

終了・健康チェック

9:00

ウォーキング

14:00

15:00

温泉浴

17:00

昼食：熊野古道弁当

栄養士の監修の下、野菜中心のおかずと食べやすい4種のおにぎりで、バランスの良い食事を提供。見た目にも旅心をくすぐる竹かご弁当箱は持ち帰れる。



温泉浴

ウォーキングの後は地域の温泉に入浴し、ウォーキングの疲れを癒すリラクゼーション。



出典：NPO法人熊野で健康ラボ

ヘルスツーリズム認証基準の概要

ポイント お客様にも事業者様、双方にとってメリットがある認証を目指す。

お客様にとって

- ◎ ツーリズムを活用した新しい健康増進体験となるヘルスツーリズムの選択肢が増えること。
- ◎ 品質の高いヘルスツーリズムプログラムの増加が期待できること。
- ◎ 他のヘルスケアサービス、ヘルスツーリズム間で比較検討する基準ができること。



地域ヘルスケア事業者様(プログラム提供事業者様)にとって

- ◎ 提供するプログラムの品質向上が期待できること。
- ◎ スタッフの意識向上、モチベーションアップが期待できること。
- ◎ プログラムの流通促進が期待できること。
- ◎ 最終的に集客拡大が期待できること。



ヘルスツーリズム認証基準の概要

ポイント

レベル1は書面審査。
レベル2以上は、事業者に対する訪問審査、顧客に対する参加者満足度調査も実施。

調査方法	調査内容
① 書面審査 プログラム実施者が、実施項目の有無や実施内容について、申請書に記載	○マニュアル作成の有無 ○人材育成の内容 ○施設や設備の定期点検の有無 ○プログラム基本情報の公開の有無 ○参加基準の有無、確認手順 ○個人情報の管理方法 ○プログラムの目的・内容・効果・目標 等
② 訪問審査 認証事業者が、申請書内容について、現地にて確認・ヒアリング	○平常時及び緊急時の体制の確認 ○施設や設備の整備状況の確認 ○参加条件の確認方法のヒアリング ○プログラム内容の確認 ○地域活性化の貢献度合いについてのヒアリング 等
③ 参加者満足度 アンケート プログラム実施者が、参加者のプログラムに対する満足度を調べ、認証事業者に提出	○説明の分かりやすさ ○生活習慣の見直しのヒントの分かりやすさ ○満足度・生活習慣改善意向傾向 ○スタッフの対応の丁寧さ ○プログラムの楽しさ 等

ヘルスツーリズム認証基準の概要

ポイント 認証のレベルは1～3の3段階を想定している。

★★★レベル3

(5件程度)

全項目を満たす

《トップランナー》

★★★レベル3

- エビデンスに基づき、生活習慣の変化を促すプログラムであること。
- ヘルスツーリズムの好事例として、域内外と連携し、多くの顧客を魅了するプログラムであること。

★★レベル2

(20件程度)

一部の追加項目を満たす

《地域に根ざした
特色のあるプログラム》

★★レベル2

- 専門家も巻き込み、効果がより実感できるとともに、参加者がより高い満足度を得られるプログラムであること。
- 域内の他の事業者と連携するなど、地域の活性化に大きく貢献するプログラムであること。

★レベル1

(100件程度)

必須項目を全て満たす

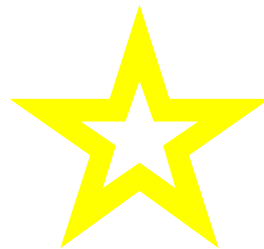
《基本的な要素を
兼ね備えたプログラム》

★レベル1

- ヘルスツーリズムプログラムを提供しようとする初期段階の事業者の参考となる基準として、我が国のヘルスツーリズム振興の基盤となるもの。
- 産業全体の底上げ・裾野の拡大のため、安全性は必須条件として審査。
- 安全性以外の項目については、ヘルスツーリズムの基本要素（健康への気付きを与えること、楽しさ、地域振興）を最低限満たすもの。

レベル1の基準の概要

(注)実際の要求水準は若干異なります



ヘルスツーリズム認証の項目(レベル1)

安全性

●プログラム基本情報の設定

✓プログラムを安全に提供するにあたりプログラム提供事業者は以下の内容を明確にし、それを実施する体制を整えていること。

プログラムの名称、目的する効果、料金、日程、最少催行人員・参加定員など

●プログラム提供事業者内部における共有

✓プログラムを安全に提供するにあたりプログラム提供事業者は以下の内容を明確にし、それを事業者内部で共有していること。

プログラム運営体制、必要備品、日常の施設・設備・備品の点検方法など

ヘルスツーリズム認証の項目(レベル1)

安全性

●新規採用人材の育成体制の整備

- ✓プログラム提供事業者がプログラム実施者を新規に採用した際は、プログラムの内容に準じた教育及び現地での実地研修を実施していること。

●プログラム実施者に対する研修

- ✓プログラム提供事業者は年に1回以上、すべてのプログラム実施者に対して、以下の内容を含む研修を実施、または他の企業者や自治体の実施する同様の研修に参加させていること。

応急手当の方法、プログラムを提供するスキルの向上、健康増進に関する知識、プログラム催行中の緊急事態に備えた対応訓練など

●プログラム管理者に対する研修

- ✓プログラム提供事業者は年に1回以上、すべてのプログラム管理者に対して、以下の内容を含む研修を実施、または他の企業者や自治体の実施する同様の研修に参加させていること。

プログラムの管理・運営方法、提供サービスの均一化など

ヘルスツーリズム認証の項目(レベル1)

安全性

●施設・設備・備品の保守・点検

- ✓プログラム提供事業者は以下の施設・設備・備品における保守・点検の内容を明確化し、計画的に保守点検を実施していること。また、その結果を書面又は電磁的記録において適切に保管していること。

プログラム催行場所、プログラム催行までの経路、非常口や非常経路など

●プログラム基本情報の公開

- ✓プログラム提供事業者はプログラムの基本情報を書面又は電磁的記録を用いて一般に公開していること。

●参加者の確認

- ✓プログラム提供事業者は事前にプログラム参加者に関する以下の情報が参加条件に合致しているか確認していること。

障害、アレルギー、既往歴、年齢、身長、言語

- ✓プログラム提供事業者が実施する、参加者の当日の健康状態の把握に関して以下の行為を行っていること。

プログラム実施者が作成したチェックリストによる参加者自身の体調確認
プログラム実施者が行う参加者の場至チェック

ヘルスツーリズム認証の項目(レベル1)

安全性

●安全確保のための注意事項についての説明

- ✓プログラム提供事業者はプログラム実施前に、安全確保のため以下の注意事項についてプログラム参加者に対して説明を行っていること。
リスク内容、催行基準に達しない場合は中止になること、など
- ✓プログラム提供事業者はプログラム開始時に、安全確保のため以下の注意事項についてプログラム参加者に対して説明を行っていること。
安全確保のための施設・設備・備品の使い方など

●法令の遵守

- ✓プログラム提供事業者は、プログラム提供における施設及び内容に応じて必要となる法令に基づき、許認可を受けていること。

●個人情報の適切な管理

- ✓個人情報の管理に関しては、以下の要件を満たしていること。
プログラム管理者およびプログラム実施者、その他プログラム実施に関わるスタッフに対する個人情報守秘義務の教育など

●プログラム効果を誇大・歪曲しない適切な説明

- ✓プログラム提供事業者は景品表示法、医薬品医療機器等法などを遵守しつつ、プログラム参加者に誤解を招くことのないような説明をしていること。

ヘルスツーリズム認証の項目(レベル1)

有効性

●プログラムの構成

- ✓プログラム構成の中に参加者自身が自分の生活習慣や心身の状態を認識する内容が含まれていること。
- ✓プログラム構成の中に健康への気づきを与えることを目的とした内容が含まれていること。

●参加者とのコミュニケーション

- ✓プログラム実施者はプログラムの目的・内容・効果・目標について、わかりやすく説明していること。
- ✓プログラム実施者は、プログラム参加者の現在の健康状態を確認したり日常生活における健康状態をヒアリングしたりしていること。

ヘルスツーリズム認証の項目(レベル1)

価値創造性

●情緒的価値の創造

✓プログラム提供者は、健康への気づき以外のプログラムのテーマ又はストーリーを設定していること。

●情緒的価値の創造

✓プログラム催行場所の地域資源を活用していること

✓プログラムの中で地域資源を活用することの重要性について研修等を通じ、プログラム提供事業者内部で共有していること。

✓地域の関係者間で目指している価値を共有するため、理念を掲げていること。

評価

●安全性・有効性・：価値創造性における評価

✓年に1回以上、以下の内容を含むプログラム管理者およびプログラム実施者、その他プログラム実施に関わるスタッフアンケートを実施、プログラム内容・提供体制の改善に活用していること。

プログラム概要の確認、プログラム運用上の課題と改善案など

**ツーリズム業界、ヘルスケア業界の皆様と
新しいツーリズム、地域ヘルスケアビジネスを
創造してまいります**